



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2017年1・2月
第314号

病院だより第314号 (2017年1・2月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

発行責任者

藤が丘病院長 高橋 寛

編集責任者

広報委員長 田中 淳一

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

TEL

045-971-1151

新年を迎えて

藤が丘病院 病院長 高橋 寛

2017年、酉年が明けました。

昨年1月1日より始動した電子カルテを始め、腫瘍センターの移設、プレストセンターの開設、リニアックの入れ替えなど、開設40年を迎え老朽化した藤が丘病院に新たなカンフル剤を注入した感があります。



電子カルテの運用につきましては、多少の混乱はありましたが、大きなトラブルはなく運用できました。これは一昨年より準備をさせていただいた多くのスタッフの皆様のお蔭であり、心より感謝申し上げます。電子カルテの導入により不要になったカルテ庫に腫瘍センターが移設され、内容もリニューアルしたことでより効率的な運用が可能となりました。

消化器・一般外科より乳腺外科が独立し、新たにプレストセンターを11月に開設いたしました。プレストセンターの特徴は、センター内で診察・超音波検査・マンモグラフィー・生検が可能であることです。患者さんはセンター内で全ての診療ができることで、検査のために他の場所にあるレントゲン検査室や超音波検査室に移動しなくても良いというメリットがあります。今後、遺伝子検査も含めてより充実したセンターになることが期待されます。

リニアックは12月に入れ替え作業が終わり、稼働しました。この6か月間は各部署に大変なご不便をおかけしましたが、最新のリニアック装置の導入により治療効果の向上が期待されます。

このような診療部門における整備の改善のみならず、診療体制も大きく変化した1年でした。救急体制の見直しにより、医師の労働環境の改善が図られました。さらにこの改革は、救急車や近隣の開業医師よりの紹介受け入れ態勢の改善などと相まって、藤が丘病院に対する評価が多いに高まりました。このことにより、青葉区医師会より感謝状をいただくことになりましたことをご報告いたします。

昨年の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今年の藤が丘病院が更なる躍進のためにより一層のご支援をお願いいたします。

平成29年 新たな年に向けて

藤が丘リハビリテーション病院 病院長 市川博雄

平成28年4月に昭和大学藤が丘リハビリテーション病院院長に就任し、多くの皆さまのご支援を得て無事に新年を迎えることができました。

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院は、リハビリテーション科をはじめ、整形外科、内科、眼科といった診療科を擁し、一般病棟と回復期リハビリテーション病棟とがございます。リハ

ビリテーション病院の最大の役割は、身体機能等に障害を有する方々に良質なリハビリテーションを提供し、社会復帰の後押しをすることです。

リハビリテーション科におきましては、昨年、先代の診療科長であります水間正澄先生の退任に伴い、川手信行先生があらたに診療科長に就任され、新体制での再スタートとなっています。



昨年、理事会の下に設置された藤が丘リハビリテーション病院のあり方検討プロジェクトの答申を受け、平成29年度より理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の増員を計画しています。現在、回復期病棟は、2階が回復期リハビリテーション病棟入院料1、4階が回復期リハビリテーション病棟入院料2を取得していますが、本年は4階病棟においても回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得し、より充実したリハビリテーションの提供を目指してまいります。

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、これまで昭和大学藤が丘病院からの転院患者を中心に受け入れてまいりましたが、昭和大学附属の急性期病院、とくに地理的に近い昭和大学横浜市北部病院からもリハビリテーション適応の患者さんをより積極的に受け入れてまいります。昭和大学の各附属病院との連携をさらに深め、リハビリテーション病院としてますます充実した医療を提供できるよう努力してまいりたいと思います。本年は酉年ですが、大きく羽ばたける1年になりますよう一同努力してまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

病院機能評価の訪問審査が行われました。

藤が丘病院管理課 岩崎 直樹

平成29年1月31日(火)、2月1日(水)の2日間に渡り、昭和大学藤が丘病院において病院機能評価の訪問審査が行われました。既に当院は認定病院となっていますが、この度、5年に1度の認定更新時期を迎えるにあたり、昨年4月より、佐々木副院長を委員長とする準備委員会を立ち上げ、委員を中心に病院一丸となって、評価項目に基づき現状の体制を振り返り自己評価を行いました。そして、そこで明らかとなった問題を解決すべく各部署で検討を重ね、改善を進めました。また、



学内機能評価のサーベイヤー(調査評価者)にもご協力いただき、リハーサルを行ってきました。

訪問審査当日は、公益財団法人日本医療機能評価機構より6名のサーベイヤーを迎え、診療・看護・事務領域の視点から、書類確認、面接審査、部署訪問、ケアプロセス調査が行われました。当院からは、病院長をはじめとする病院幹部や多数の職員が参加しました。面接審査では、サーベイヤーからの質問に対し、担当する部署の責任者が回答・説明を行いました。部署訪問では、現場の職員から業務の説明や、安全・感染管理体制についての質疑応答が行われました。ケアプロセス調査では、4つの病棟・診療科で典型的症例を対象に、電子カルテを参照しながら外来受診、入院から退院までの一連の経過に沿って、診療・ケアにおける役割と機能が発揮されているか確認が行われました。

2日間の最後に、サーベイヤーからの講評を頂き意見交換を行いました。大きな指摘もなく、概ね良好とのコメントをいただき、無事に訪問審査を終えることができました。



訪問審査を通してサーベイヤーの方からは多くの示唆的なアドバイスを頂きました。また今回の受審準備として、病

院内で様々な改善活動を行いました。これを一時的なものにとせず、今後も引き続き病院の更なる改善活動につなげ、病院体制の一層の充実や医療の質の向上を目指していきます。



院内で様々な改善活動を行いました。これを一時的なものにとせず、今後も引き続き病院の更なる改善活動につなげ、病院体制の一層の充実や医療の質の向上を目指していきます。

藤が丘病院で始まった新しい放射線治療法

藤が丘病院放射線治療科 講師 新城 秀典

放射線治療科は、放射線を用いて治療を行う唯一の科で、手術療法、化学療法と並んでがん治療の重要な役割を担っています。根治治療から緩和治療まで、幅広い患者群(ほぼすべての悪性腫瘍)を対象とし、臓器の形態と機能を温存できる点が特徴です。昨年末に最新の放射線治療器が導入され、従来の放射線治療の手法に加えて新たな治療法が可能になりました。新しく可能になった放射線治療法は、強度変調放射線治療(IMRT: Intensity Modulated Radiation Therapy)、定位放射線治療(SRT: Stereotactic Radiation Therapy)です。

強度変調放射線治療は、照射範囲内の放射線量の濃淡を意図的につける技術です。治療対象の標的と隣接する正常組織が同一照射範囲内にあっても、正常組織への放射線量を減らし、より副作用を少なくすることが可能な照射法で、前立腺癌、頭頸部癌が良い適応です。定位放射線治療は、多方向から一度に多くの放射線量をピンポイントに照射することが可能な照射



方法で、早期肺癌や3個以内の脳転移巣が良い適応です。新しい治療法と同時に、呼吸移動に同期して治療可能なステムや、位置ズレを精度良く評価・補正できるシステムも導入され、従来行っていた放射線治療の質の向上も得られています。

放射線治療科は、新城秀典、岡部尚行の2名の医師、3名の技師、4名の看護師スタッフで毎日 Web カンファレンスを行い、昭和大学グループ間(藤が丘病院、昭和大学病院、横浜市北部病院、江東豊洲病院)で、症例検討や治療方針の決定、情報の共有に努めながら日々の治療を行っています。また、藤が丘病院内では、各診療科とカンサーボードやカンファレンスを含め、できるだけ密に連携をとり、地域内でも直接患者さんを介してお話をし、迅速に放射線治療を提供できる環境を整えていけるように取り組んでいます。

今後も診療科内、藤が丘病院内、昭和大学グループ内、地域内の各層において、チームとしてがん治療に携わり、現在標準で行われている最新の放射線治療を、効率的で安全に提供できるように努力していきたいと思っています。



リハビリテーション病院 作業療法室のご紹介

リハビリ病院 リハビリテーション
作業療法士 千賀 浩太郎

藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター作業療法室(以下OT室)には、現在15名の作業療法士が勤務しています。作業療法は、個々の患者さんに対して、さまざまな活動を通して身体機能や精神機能の改善を図り、日常生活動作(ADL)、家事動作の向上につなげています。具体的には、ベッド上や机上の訓練だけでなく、患者さんのニーズに合わせて、調理などの家事動作訓練、公共交通機関(電車やバス)の利用訓練などの他に、実際にご自宅を訪問して評価し、退院後に必要な福祉用具の選定と自宅環境に合わせた訓練を行っています。特に回復期病棟の患者さんに対しては、質・量ともに充実した治療や関りを通して、患者さんの回復が進み、その人らしい生活が送れるように支援しています。OT室一同、切磋琢磨し協力しあって取り組んでおります。



4階西病棟はどんな病棟なのか知っていますか？

藤が丘病院4階西病棟 師長 辻本 さなえ

みなさんこんにちは。今日は藤が丘病院4階西病棟の紹介をさせていただきます。4階西病棟は幾度かの診療科編成を経て、現在は泌尿器科、耳鼻咽喉科、血液内科、糖尿病・代謝・内分泌内科の混合病棟です。病床数は院内最多の56床です。一見何の共通点もないように見える4科ですが、とても仲が良く、コミュニケーションも十分に保たれ、良好な協力体制ができています。患者さんにとって何が最良か、医師・看護師間でよく話し合っています。4科混合と聞くと、大変そう、忙しいといったイメージを持たれている方も多いと思いますが、忙しい中にも笑顔を忘れずに頑張っているスタッフが多く、働きやすい病棟であると自負しています。これからも患者さんの入院生活が少しでも快適なものになるようスタッフ一同努力していきたいと思っています。



特別室501号室がリニューアル

藤が丘病院唯一の特別室501号室は、約1ヵ月の工事を経てリニューアルしました。藤が丘病院築42年、外装はトロでも病院にいることを感じさせない快適な療養ができる病室をコンセプトに、安全性・利便性にも配慮した特別室に生まれ変わりました。今回の改修で最も力を注いだのは、トイレと風呂です。一体型で介助する側も一苦労だった風呂釜は影も形もなくなり、洗面台を中心に左右にトイレとシャワールームを個別に分けることで、患者さん・介助する側にも使い勝手の良い環境へと変わりました。また、備え付けの家具も入院生活を快適に送るための大切なアイテムと位置づけ、患者さんが物を書いたり仕事をしたりすることができる机



や、患者さんが自ら身だしなみを整え全身チェックのできる姿見等を新たに設置致しました。内装の壁紙は、藤が丘病院のトロなイメージを残しつつ、落ち着いた色調で尚且つおしゃれな壁紙を選びました。

藤が丘病院・院内書道展を開催

昭和大学藤が丘病院書道同好会は藤が丘病院開院とともに発足し、現在も継続しています。私、光谷素仙(俊幸)が、会の指導を行うようになって早いもので20数年が経過します。今回の出展作の大部分は昨年9月に埼玉で開催された「墨光書道展」出品作品でした。小品は3月に横浜ランドマークタワーで開催された「かながわ書道まつり」出品作品(光谷素仙、樋口泰仙)も展示させていただきました。

私どもは、一人でも多くの患者さんに院内展をご高覧頂き、喜んでいただけることを願っております。今回も多くの患者さん、何人ものお見舞いの方から喜びの感想を頂き、会員一同感激の気持ちで一杯です。今後とも院内書道展にご理解を頂きたいと思っております。そして書道同好会に入会したい方の連絡をお待ちしております。



(昭和大学名誉教授 光谷 俊幸(素仙))

クリスマスコンサートを開催

昨年12月16日(金)午後5時より、藤が丘病院1階初診受付前ロビーにて、青葉区を中心に活動しているアマチュアのマンドリンアンサンブル「マンドリーノ・フェリーチェ」の方々をお招きしてクリスマスコンサートが開催されました。「マンドリーノ・フェリーチェ」の方々には昨年も演奏していただき、2年連続となりました。当日は、各パートの楽器についてそれぞれ分かりやすく説明していただいた後、ラバースコンチェルト、トロイカ、赤とんぼ、ジングルベルなど13曲を披露していただきました。入院患者さんや外来患者さん、見舞いの方など延べ80名を超える方々は、優しいマンドリンの音色に暫し酔いしれました。



第21回 藤が丘地域連携フォーラムを開催

平成29年1月12日(木)、藤が丘病院にて第21回藤が丘地域連携フォーラムが開催され、地域医療機関の皆様50施設75名、昭和大学藤が丘病院関係者99名の合計174名の方々にご参加いただきました。

今回は放射線治療装置(リニアック)が昨年12月に更新されたことを受け、昭和大学病院放射線治療科 加賀美芳和教授より「昭和大学での放射線治療」というテーマで講演をして頂いた後、放射線治療室の施設見学を行いました。講演会、施設見学に引き続き、立食形式での懇親会を開催しました。各テーブルとも、とても賑やかに会話が弾んでいました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。



ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。

なお、次回、第22回地域

連携フォーラムは、平成29年4月13日(木)に開催を予定しております。多数のご参加を心よりお待ちしております。



聞き入り、講演終了後は多くの質問が寄せられ、演者は一つ一つに、真摯かつ丁寧に答えていました。藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院では、今後も地域の方々の意向を反映し、誰でも気軽に参加できる公開講座を開催していきたいと考えております。



ブラック・ジャックセミナーを開催

平成29年2月4日(土)、藤が丘病院にて未来を担う子供たちに医療に興味を抱いてほしいとの思いから「第4回 藤が丘ブラック・ジャックセミナー(ジョンソン・エンド・ジョンソン共催、横浜市教育委員会後援)」を開催しました。当日は、横浜市青葉区周辺の小学校5・6年生52名と、スタッフとして医師・看護師・事務職員の38名が参加しました。小さなブラックジャックたちは、軟性内視鏡体験・最新医療機器体験・腹腔鏡トレーニング・心肺蘇生など、実際に医師の仕事を体験できる7ブースに、目を輝かせ積極的に取り組んでいました。セミナー終了後は、消化器・一般外科の加藤准教授より修了証と記念品が一人一人に手渡されました。藤が丘病院では今後もこのようなセミナーを継続して開催してまいります。



公開講座を開催

平成29年1月28日(土)、藤が丘病院C棟臨床講堂にて平成28年度第2回藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院公開講座が開催され、26名の方が受講されました。今回は『花粉症』をテーマに、藤が丘病院耳鼻咽喉科 庄司育央講師による『花粉症と舌下免疫療法』と、リハビリテーション眼科 徳永義郎助教による『花粉症とアレルギー性結膜炎』の2つの講演が行われました。受講者はメモを取りながら熱心に



診療統計

2016年12月・2017年1月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2016年12月	2017年1月	2016年12月	2017年1月
外来患者数	26,863人 (1,168.0人)	26,324人 (1,144.5人)	3,869人 (168.2人)	3,769人 (163.9人)
入院患者数	15,429人 (497.7人)	15,253人 (492.0人)	5,054人 (163.0人)	4,711人 (152.0人)
紹介率	83.3%	81.6%	67.1%	60.3%
逆紹介率	74.6%	67.9%	77.9%	59.0%

《編集委員》

田中 淳一	佐々木 春明	市川 度	池田 裕一	小岩 文彦	磯 良崇
芳賀 ひろみ	辻本 さなえ	猪股 里美	出川 美幸	杉山 創	小宅 育代
岩井 謙憲	圓乗 佑太	大塚 凌	高橋 良治	(順不同)	